# 英語多読授業について

## １　目的について

・共通テストを含め将来役に立つ、英語の基礎体力を身につけるため。
・今現在で相当な学力差がある集団（上は偏差値７０以上、下は偏差値３０台）で、個別最適な勉強時間を確保するため。

## ２　目標について

Ｒ６年度卒業生の実践データに基づき、２つの到達目標を達成してもらいます。
達成目標１　４万語以上読む（偏差値を下げないための最低ライン）
達成目標２　８万語以上読む（共テの点数を伸ばすための最低ライン）
最終目標　　３０万語読む

## ３　絶対に守ってほしいことについて

### ０）多読３原則＋１

①辞書は引かない　②わからないところはとばす　③つまらなければやめる
④日本語に訳さない

### １）他人のじゃまをしない（ことばを発しない）

飽きてきた人同士でコソコソ話をすることが想定されますが、読んでる人には邪魔でしかないので、やめてください。また、自分がやる気がないからといって、「これつまんないよな」「これやってどうにかなるの？」のように友達をやらない方向に誘う行為もやめてください。他人の人生にも関わることです。

### ２）自分のレベルにあったものを読む（速読を意識）

見栄をはって難しいものに手を出さないでください。たまに見たことがない単語が出てきても、文脈で大体の意味を推測できるくらいの難しさであれば大丈夫ですが、１行に１つはわからない単語が出てくるのは難しすぎです。スラスラ読んで意味がわかるくらいの簡単なものを選んでください。これがうまくできるとリスニング能力も上がります。

### ３）無理をして最後まで読もうとしない

「難しいもの」や「つまらないもの」を「頑張って」読まないでください。
「簡単で」「面白いと感じられるもの」を「楽に」読んでください。
易しいものをたくさん読む「やさたく」
ゆるく長く続ける「ゆるなが」

### ４）記録を忘れない

多読記録のスプレッドシートに記録を必ずその日のうちに残しておきましょう。

# ４　参考資料

## ①レベルの目安

　レベルはYL（読みやすさレベル）というものを参考にしてください。本当はYL0.1などの本当に簡単なものから始めるのが基本ですが、「さすがに簡単すぎてやる気が出ない」という人もいると思うので、まずはYL0.5前後のものを読んでみるといいです。「もっと簡単なものからやり直したい」という人はYL0.1からスタートするのをお勧めします。
　読むスピードの目安は、最初は分速８０程度でもいいですが、最終的には分速２００語を目指します。特に速く読もうとしなくてもこれくらいで読めるようなものをたくさん読めるとリスニング対策としては理想的です。

## ②レベル上げの目安

適切なレベルであれば、同じレベルのものをしばらくの間読み続けた方が効果的です。ただし、ある程度の量を読んで、十分な速さで読めるようになったと思ったら少し上のものに挑戦してみましょう。先を急いでどんどんレベル上げをすれば読むスピードがなかなか上がらないので、焦らないでください。レベルを意識しなくても同じレベルを維持するためには、同じシリーズの同じレベルのものを片っ端から読んでみるというのも一つの手です。

## ③おすすめシリーズ

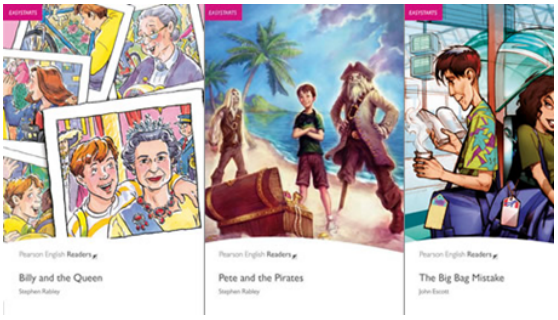
Foundations English Libraries




Pearson Kids




Pearson English Readers




Buildingblocks Library



Oxford Story Tree




Oxford Dolphin Readers

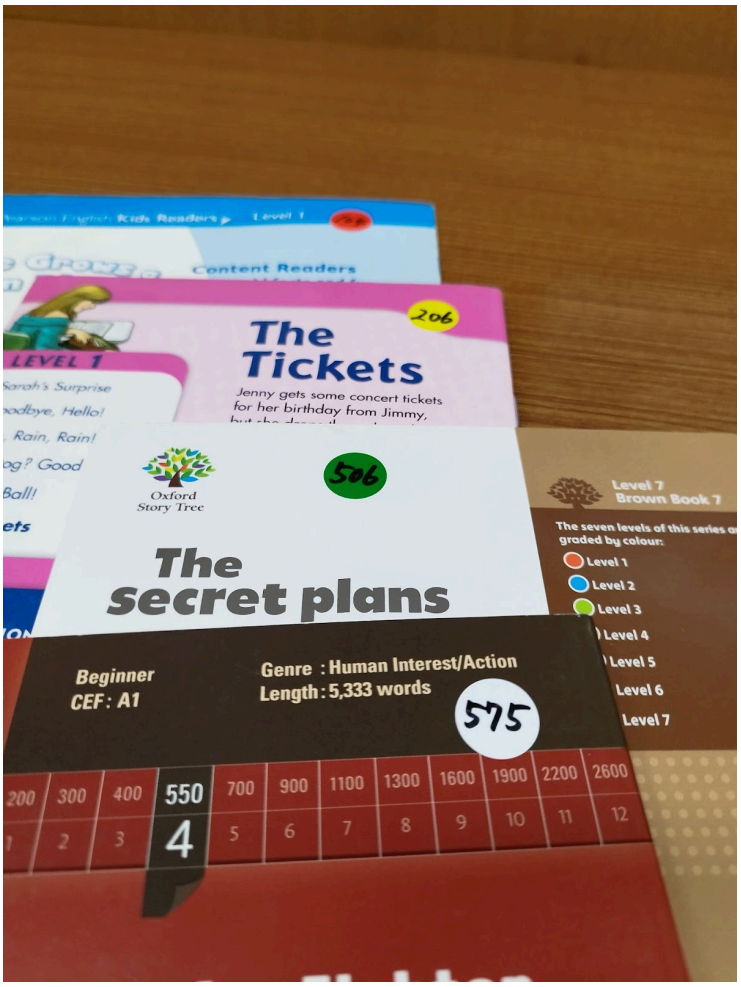



Oxford Bookworms Library



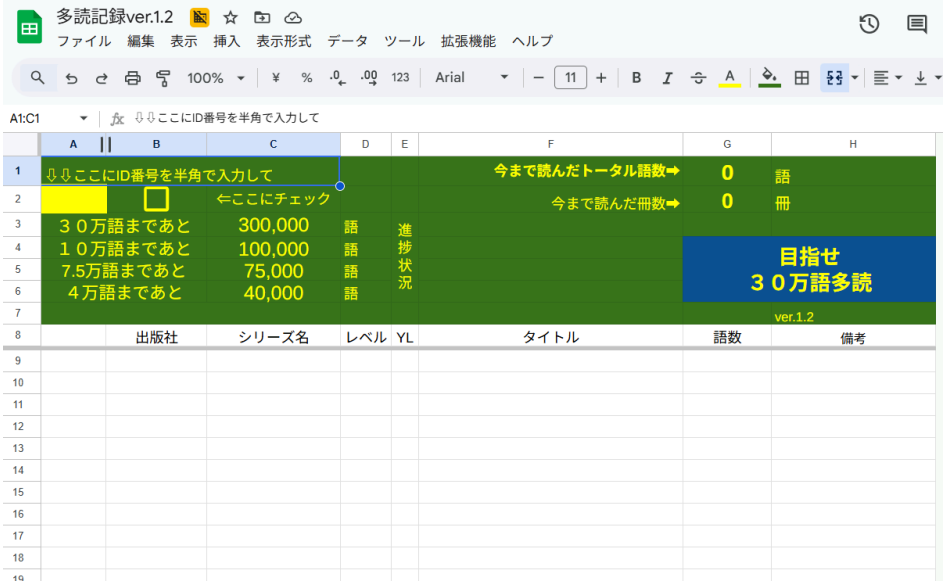
# ④記録の仕方

1）本を読み終わったら、本の裏に貼ってある丸いシールに書いてあるID番号をチェックします。



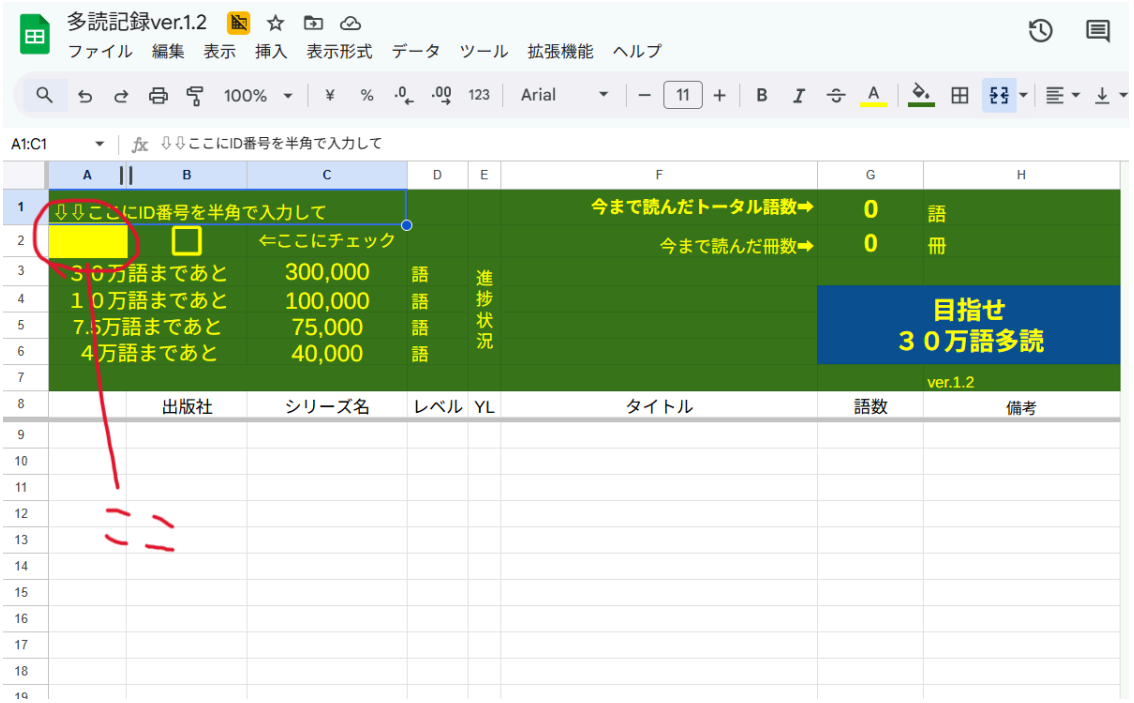
赤とか黄色とか緑とか白のシール（難易度別）

2）多読記録Ver.1.2というスプレッドシートにID番号を記録します。



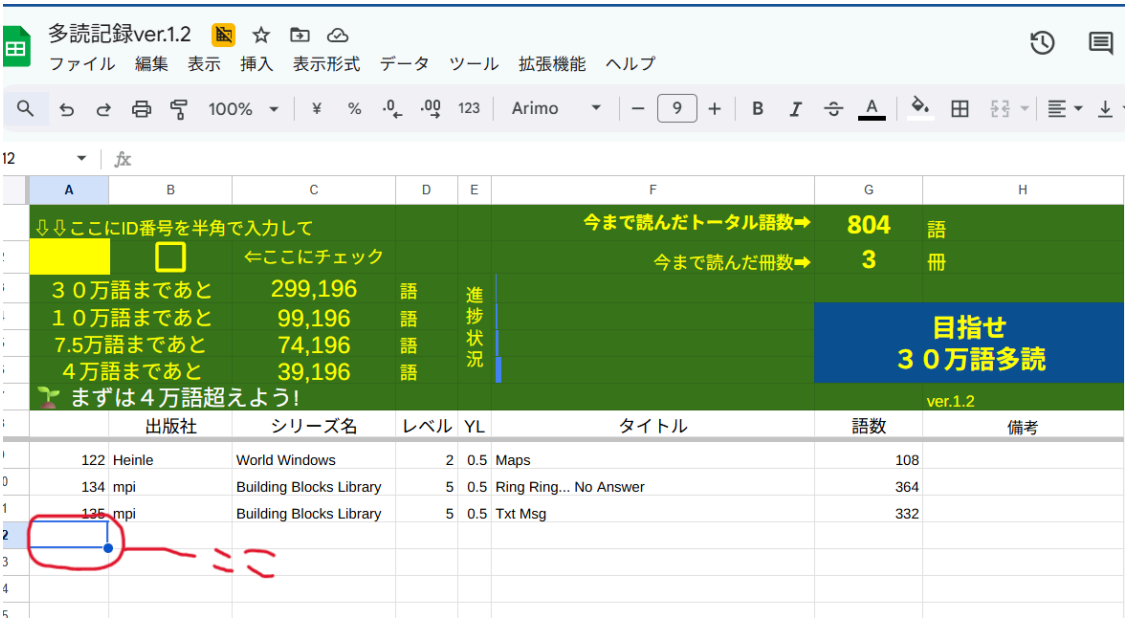

！間違えたら、A列（A9より下）の数字だけ直してください。他のところはいじらないように。

ｉ）入力方法その１（スマホやタブレットでやる場合に楽？　ちょっとタイムラグが発生）




A2の黄色いセルに半角でID番号を入力して、そのあとでB2のセルにある□をチェックする。
すると、下のA9のセルにその数字が入力されて、そのID番号の図書名や語数が自動で入力されて、G1のセルに総語数とＧ２のセルに総冊数が表示される。操作は数字の入力とチェックだけ。

ｉｉ）入力方法その２（PCやクロームブックはこっちが楽かも。ただ探すのが面倒。）
A9のセルよりも下のところにID番号を入力するだけ。上と同じく、後は自動で情報が表示される。




このやり方の場合は、たくさん読んだ場合に前回入力したところを探してスクロールする必要あり。面倒な場合は入力方法１を使うと自動で入力される。

！間違えたらA列（A9より下）の数字だけ直してください。それ以外のところはいじらないように。